

助成金の申請をご検討の法人さまへ



日本郵便

年賀寄付金

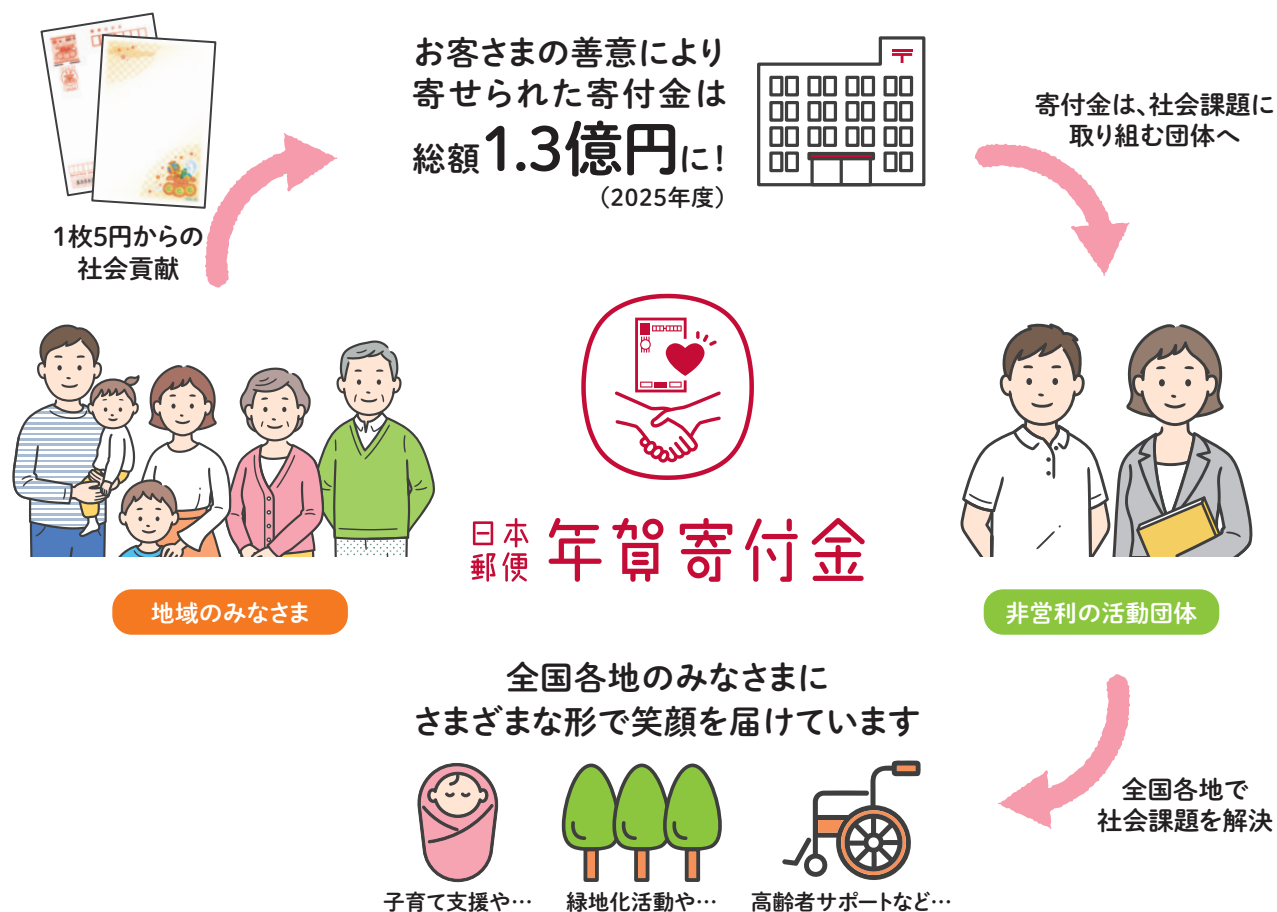
日本郵便年賀寄付金活用事例集



全国各地で
さまざまな形で
地域のみなさまに
笑顔を
届けています



年賀寄付金配分事業とは



「年賀寄付金配分事業」とは、全国の皆さまに寄付金付「年賀はがき・年賀切手」をご購入いただくことで寄せられる寄付金を日本郵便が預かりし、毎年配分を行う事業です。寄付金付年賀葉書による年賀寄付金助成は1949年に始まり、この歴史を重ねる中で、日本固有の寄付文化に発展してきました。これまでに多くの寄付をお寄せいただいた皆さまの、心優しい温かいお力添えに心から感謝申し上げます。

2026年度も日本郵便年賀寄付金の配分を希望する団体を公募いたします。

詳しい申請方法、お問い合わせなどにつきましては、日本郵便年賀寄付金Webサイト内、『年賀寄付金による社会貢献事業助成』のページをご覧ください。

<https://www.post.japanpost.jp/kifu/>

🔍 日本郵便 年賀寄付金

詳しくはこちら!



助成対象事業と事業内容

お預かりしました寄付金は、総務大臣の認可を経て、法律で定められた10の事業を行う全国各地の多くの団体に配分されます。

さまざまな事業を対象としています

助成事業	事業内容例
 社会福祉増進	- 生活に困窮する女性を支援する物資配給事業 - 障がい者アートの商品展開のための布用プリント設備の導入 - 健康寿命とITリテラシー向上のためのシニア向けeスポーツ事業 - 障がい者福祉施設の農作業用トラクターの導入 - 過疎地域における空き家の改修と地域活性化 - ギャンブル依存症からの回復を支援する事業 - 乳幼児をもつ親を対象とした子育てサポート事業
 青少年健全育成	- ヤングケアラーの支援事業 - 小学生を対象とした宿泊型体験プログラムの実施 - 発達障害を抱える子どもたちの居場所づくり - 子ども食堂を運営するための施設改修および調理機器の導入 - 少年院での文化芸能活動を通じた自立支援活動
 地球環境保全	- 森林資源を活用したエコ食器の普及活動 - 環境に配慮した太陽光発電設備の設置事業 - マイクロプラスチックによる汚染状況の調査
 スポーツ振興	- 老若男女を対象としたウェルネススポーツの推進事業 - 健康増進のためのスポーツクラブガイドの制作・配布 - 障がい者スポーツの推進事業
 開発途上地域からの留学生・研究生の援護	- 留学生への生活応援物資の拠点整備 - 技能実習生の居場所づくり - 日本語検定受験者の支援

次のページへ続く

助成事業	事業内容例
 風水害・震災等、 非常災害時の 救助・災害の予防	●東日本大震災被災者に向けたメディア情報発信 ●南海トラフ地震に備えた災害支援拠点の施設改修 ●ジェンダー視点の防災教育の構築 ●被災した子どもたちを癒すレクリエーション等の実施 ●災害時の動物避難所マップの制作、ペット防災の推進 ●豪雨被害地域におけるキッチンカーでの食事提供 
 交通事故、水難の 救助・防止	●自転車の安全運転教室 ●交通事故被害者・遺族の支援事業 ●中高生向け交通安全指導テキストの制作 ●運転フレイルの評価や自動車免許自主返納を促す相談会の実施 ●海の安全利用促進のための指導員育成事業 
 がん、結核、 小児まひなどの 研究・治療・予防	●希少難病の医師向け診療機関検索サイトの開設 ●乳がん患者を対象とした心と身体をケアするリハビリイベントの実施 
 原子爆弾の 被爆者への 治療・援助	●被爆二世に対する調査検診事業 ●小学校での原子爆弾についての特別授業 
 文化財の保護	●世界文化遺産の地域資源の活用、市民の記憶継承のための活動 ●日本在来種の生物との共生をめざす事業 ●小中高生とともに古代遺産の調査を実施 ●伝統工芸品の製作体験講座を中心とした継承事業 

上記の事業は一例です。ほかにも、さまざまな事業へ助成を行っています。

特別枠(東日本大震災) 非常災害救助

東日本大震災などによる 困窮者を伴走支援

誰一人排除しない、365日対応の体制づくり

活動団体 NPO法人仙台夜まわりグループ(宮城県)

助成金額 **1,753,000円**

仙台夜まわりグループは、仙台市内の路上生活者に対する相談業務や生活支援、自律支援を2000年から行う団体。東日本大震災後、職や棲家を失ってしまった生活困窮者への支援として、炊き出し・大人食堂、夜まわり、物資の提供などを毎日に行っている。なかでも生活困窮者ほっとライン「HELP!みやぎ」では365日電話相談を受け付けており、応対スキルの高いスタッフの維持・育成に人件費の確保が重要な課題となっていた。そこで助成金を申請し、人件費や交通費等のほか、電話相談の告知チラシの制作などに充当。支援を継続する一助とした。災害の影響はいまだ大きい。苦しむ人々が解決方法を見出せるよう、同団体は手を差し伸べ続ける。

理事長 新田貴之さん

支援活動や電話相談は緊急性の高い対応が求められることも多く、応対するスタッフには肉体的にも精神的にも大きな負担がかかります。スタッフの人件費を安定して確保し、何度も助成を受けられる年賀寄付金は、活動の継続に非常に役立ちました。

緊急相談受付

510件/年

8:00~21:30まで年中
無休で電話相談を受け
付ける「HELP!みやぎ」。

助成金で制作したチラシ
は、夜まわりや大人食堂な
どの支援活動で配布。

支援はほぼ毎日実施。病院や法テラスなどへの同行なども行う。

活動・一般

地球環境保全

多摩川水域の 汚染状況の調査研究

助成金を用いて環境問題の周知拡大を図る

活動団体 NPO法人R.I.La(東京都)

助成金額 **1,659,968円**

環境保全のための調査研究を行い、イベントを通して環境問題の周知と意識の拡大を図るR.I.Laでは、助成金を用いて多摩川水域の汚染状況を調査した。主な用途は、多摩川に生息する魚類を捕獲しマイクロプラスチックの検出検査を行うための検査費用と人件費・交通費。調査エリアを拡大でき、研究活動の一助となった。2023年度は市民や学校を対象としたワークショップの開催数を増やしたり、YouTubeやSNS上で活動報告を行うなど、一般向けの周知を拡大。他の環境系NPO法人の立ち上げにも協力し、さまざまな人々の環境問題への意識を高め、自ら活動する機会づくりのサポートにも努めている。

理事 伊藤教行さん

助成金を用いて活動の場を広げることができました。特に大学との協働調査や、東京・埼玉・熊本約20の学校での講演は、参加者が環境問題を考える場となっており、未来につながる機会をつくることができたと感じています。

調査への参加団体

10団体

多摩川の上流から河口域間に16か所、源流域に16か所の定点観測地点を
設け、生息する魚類を捕獲。

マイクロプラスチック調査の手法を確立し、他団
体や学生・生徒などにその方法を伝授した。

機器購入

社会福祉の増進

クラフトビールの 醸造タンクを増設

『西陣麦酒』が広げる障がい者福祉の可能性

利用者の月額平均工賃
40,404円
48,215円

活動団体	社会福祉法人菊鉾会(京都府)
助成金額	1,530,750円

菊鉾会の運営する「ヒーローズ」では、生活介護事業と就労継続支援B型事業を行っている。現在のメイン事業はクラフトビール造りだ。2017年に西陣麦酒のブランドを立ち上げ、ビールの売り上げが伸びてきた中、2023年事業拡大のために工場を現在の場所に移転。移転と同時に増設した醸造タンクのうち、一基を助成金で購入した。タンクの増設に伴い、売上金額は前年比約137%を達成。醸造量を増やせたことで、施設で働くご利用者を6人増やし、1人あたりの平均工賃も7,811円の大幅アップを実現した。ビールの需要は上がる一方で、市内外を問わず多くの人々に愛飲されており、ビール造りは障がい者福祉の社会進出の新たな形として存在感を示している。

ヒーローズ施設長 野村尊実さん

工場の移転自体にもお金がかかった中、助成金でタンクを増やすことができ助かりました。用途の自由度が高く、助成額も大きいのが便利です。まだ実現には至りませんが、郵便局のカatalog販売なども検討できればと思っています。



活動チャレンジ

青少年健全育成

子どもたちに豊かな自然経験を 手作りのビオトープの 改修工事を実行

活動団体	NPO法人すいた体験活動クラブ(大阪府)
助成金額	500,000円

吹田市の小学校の敷地内でのビオトープ制作や田畑体験に携わり、児童の自然環境学習の機会を創出するすいた体験活動クラブ。同団体は過去にも助成金を複数回受給し、小学校へのビオトープの建造・改修、田んぼや畑など、自然体験の場づくりを推進している。2023年度は桃山台小学校と南山田小学校のビオトープをそれぞれ約3か月間かけて改修した。改修時は子どもたちの自主性を重んじ、設計案は当時の6年生が担当。古くなった設備の除去からかいばり、橋の建造に至るまで、ほぼすべての作業を児童自身が担当した。改修が完了した現在は、ビオトープに咲く睡蓮の観察やドジョウの放流などの自然学習が行われ、児童に愛される場となっている。

理事長 稲山三郎さん

ボランティア活動は資金の確保が重要です。活動・チャレンジの分野では4年間連続で助成いただけるため、安定した資金確保ができます。長期的な実施計画が立てやすく、複数の学校で活動するのに大変助かっています。



施設改修

社会福祉の増進

地域を見守る象徴の場として 子どもも大人も集まる 手作りの駄菓子屋を建設

南チロル堂の利用者
平日約30~50名
休日約70~100名

活動団体	一般社団法人無限(奈良県)
助成金額	3,805,000円

無限の運営する「まほうの다가しやチロル堂」の2号店が2023年8月、奈良県生駒市にオープンした。どこか懐かしい木造りの小屋は助成金を利用してデザイン・設計、建造したものである。チロル堂は、大人が飲食をする会計金額の一部を寄付とし、その寄付をもとに子どもに食事やお菓子を提供する施設。放課後や休日には子どもが、昼食時や夜には大人が利用しにぎわう場となっている。チロル堂の役割は、単に子どもの居場所づくりに留まらない。あらゆる世代・属性の人々が同じ店を利用することで地域のつながりを強め、誰もが当事者となれる地域の社会福祉の形成を目指す。今後は地域コミュニティに参加しづらい中高年男性を巻き込む施策も計画 중이다。

代表理事 石田慶子さん

障がいを持つ児童の「子どもの職業体験」を郵便局に受け入れてもらったことをきっかけに、助成金を含めさまざまな面で応援いただいています。逆に置き配事業のモニタリングに協力したりと日本郵便とはこれからも良い関係を築けたらと思います。



活動チャレンジ

留学生援護

日本語や介護技術を学ぶ環境をサポート 技能実習生向けの学習教材や 書籍約400冊を購入

活動団体	認定NPO法人アクティブボランティア二十一(愛媛県)
助成金額	370,500円

アクティブボランティア21は、松山市内の病院・介護施設で学ぶ外国人介護技能実習生を支援する団体。介護の現場では、日本語でのコミュニケーションが不可欠であり、日本語の習得は実習生たちの大きな課題であった。助成金は活動・チャレンジの分野で申請し、2019年度から受給。4年間で書籍約400冊と学習用ICレコーダー20台を導入した。書籍は外国人向け日本語学習用テキストや介護関連分野のほか、童話集、漫画など日本の風俗がわかる娯楽本も購入。日本語能力試験や介護福祉士国家試験を受ける実習生の学びが広がり、受験対策の一助となった。2025年までに多くの合格者を輩出しており、続く実習生たちにも書籍は大いに活用されている。

理事長 渡邊義男さん

4年連続で助成いただけたおかげで毎年約50万円(自己資金含む)の事業費を確保でき、その年ごとに必要な書籍や適切な備品を探りながら拡充できました。今後も適宜書籍を調達しつつ、技能実習生たちが介護と日本語を学ぶ環境をサポートしてまいります。



助成実績

日本郵便年賀寄付金配分事業では、これまでさまざまな地域貢献活動に助成を行ってきました。
そこで、2023年度に日本郵便年賀寄付金の助成金を活用した団体をマッピングしました。助成金を活用した活動は全国津々浦々に広がっています。

※日本地図は簡略化しております。

2023年度 助成実績

事業範囲	助成額(千円)
 社会福祉の増進	162,440
 青少年の健全育成のための社会教育	31,018
 風水害・震災等、非常災害時の救助・災害の予防	28,719
 地球環境の保全	8,242
 健康保持増進のためのスポーツ振興	7,092
 開発途上地域からの留学生・研究生の援護	2,214
 文化財の保護	450
合計	240,176



NPO法人 すいた体験活動クラブ

子どもたちに豊かな自然経験を
手作りのビオトープの改修工事
を実行



NPO法人 ワンダーアート

助成金で新商品の開発や告知
媒体を強化 障がい者アートの
展開の場を拡大

日本郵便年賀寄付金Webサイトにて
詳細掲載中



NPO法人 仙台夜まわりグループ

東日本大震災などによる困窮者を伴走支援
誰一人排除しない、365日対応の体制づくり



認定NPO法人 アクティブボランティア 二十一

日本語や介護技術を学ぶ環境を
サポート 技能実習生向けの学
習教材や書籍約400冊を購入



一般社団法人 無限

地域を見守る象徴の場として
子どもも大人も集まる手作りの駄菓子屋を建設



NPO法人 グリーンスポーツ奈良

腐葉土や機材の運搬用軽トラックを導入
芝生や花壇を整備し緑あふれる街づくりに貢献

日本郵便年賀寄付金Webサイトにて詳細掲載中



NPO法人 R.I.La

多摩川水域の汚染状況の調査研究
助成金を用いて環境問題の周知拡大を図る



社会福祉法人 菊鉾会

クラフトビールの醸造タンクを増設
『西陣麦酒』が広げる障がい者福祉の可能性

助成金の申請をご検討の方へ

2026年度 日本郵便年賀寄付金配分事業のご案内

申請受付期間

2025年9月10日(水)～
2025年11月7日(金)

●年賀寄付金配分事業の4つの特徴

1

1団体あたり最大500万円の助成が可能
※1※2

社会福祉の増進(高齢者、障がい者、子どもの貧困への支援など)や被災者支援・災害予防、地球環境の保全など、幅広い事業を行う団体への社会貢献助成資金です。**人件費なども申請することができます。**

2

年度を空ければ複数回の申請が可能

「活動・チャレンジ」は4年、特別枠は**複数年連続**※3して配分を受けることができます。その他の分野では連続年の受給はできませんが、**隔年申請が可能**です。

3

公共性が高い

「お年玉付郵便葉書等に関する法律」に基づき有識者による審査を行い、総務大臣の認可を受けて配分が決定されます。

4

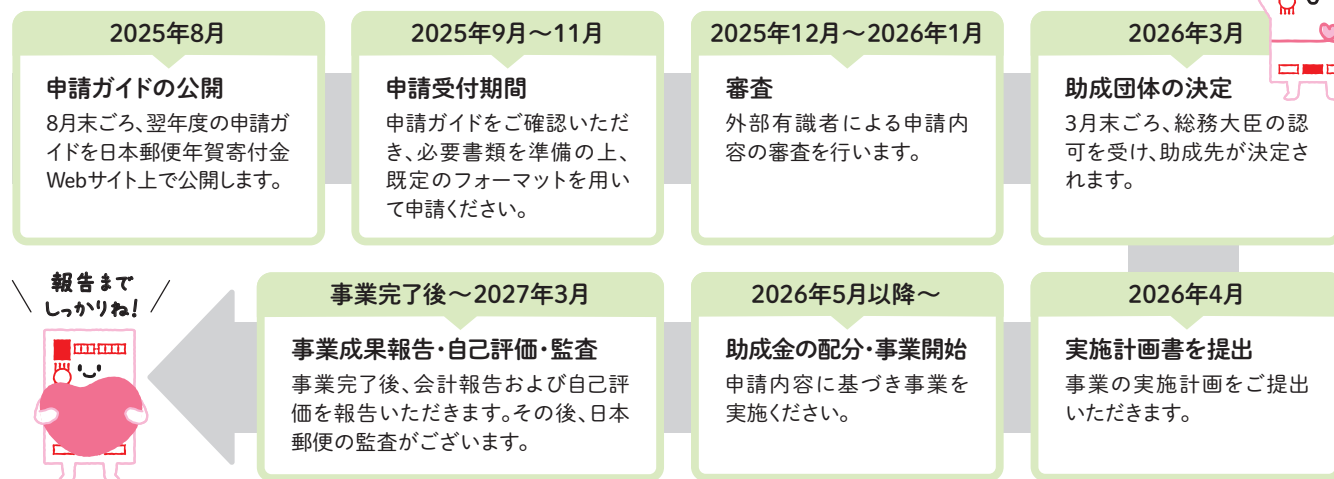
寄付金付年賀はがき・切手をご利用の方からの寄付金で助成

多くの人々が寄付金付年賀はがき・切手を購入することで社会貢献の寄付活動に参加するという、裾野の広がりを持つ助成資金です。

※1 助成金には、申請時に用途の申告が必要で、希望額から減額される場合もあります。また、事業終了後に領収書等の提出を含めた会計報告及び弊社の監査を受けることが必要となります。
※2 活動・チャレンジでの申請の場合、1年間につき最大50万円の助成となります。 ※3 年度ごとに申請と審査が必要となります。

●年賀寄付金配分事業の流れ

毎年8月末頃に、翌年度の日本郵便年賀寄付金配分事業についての報道発表を実施いたします。
詳細は、日本郵便年賀寄付金配分事業の申請ガイドまたは日本郵便年賀寄付金Webサイトをご確認ください。



※スケジュールは変更となる場合がございます。

●助成金の申請条件

1 申請対象事業 「お年玉付郵便葉書等に関する法律」に規定された次の事業いずれかに該当し、かつ、申請法人の定款または寄付行為に基づいて行う事業とします。事業の範囲が幅広いことが特徴です。

社会福祉の増進

青少年の健全育成のための社会教育

地球環境の保全

健康増進のためのスポーツ振興

開発途上地域からの留学生・研究生の援護

風水害・震災等、非常災害時の救助・災害の予防

交通事故、水難の救助・防止

がん、結核、小児まひなどの研究・治療・予防

原子爆弾の被爆者への治療・援助

文化財の保護

2 申請対象団体 次の法人のうち、申請時直近の決算時において法人登記後1年以上が経過し、かつ、過去1年間を期間とする年度決算書が確定している法人とします。

一般枠	特別枠
・社会福祉法人 ・一般財団法人 ・特定非営利活動法人(NPO法人) ・更生保護法人 ・公益社団法人	・一般社団法人 ・公益財団法人
一般枠の申請対象団体のほか、営利を目的としない法人(例)生協法人、学校法人など	

3 申請分野と申請額 年賀寄付金配分事業は、次の助成分野に分けて行います。

一般枠	活動・一般プログラム…団体の福祉・人材育成・普及啓発・イベントまたは新規事業を支援 施設改修…必要な施設の改修等を支援 機器購入…車両以外の機器の購入を支援 車両購入…車両の購入を支援	上限500万円
	活動・チャレンジプログラム…団体の福祉・人材育成・普及啓発・イベントまたは新規事業を支援 ※毎年の申請と審査を条件とし、4年間継続して助成を受けることが可能です。	上限50万円
特別枠	東日本大震災、令和6年能登半島地震の被災者救助・予防(復興) ※活動・施設改修・車両購入・機器購入の区分なし	上限500万円

4 申請事業に期待する項目および優先度合い(審査のポイント) 審査に当たっては、次の点を踏まえて総合的に判定します。

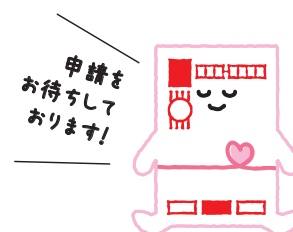
期待する項目

- ①先駆性…先駆性が高く発展性のある事業
- ②社会性…社会的ニーズとその社会的波及効果の高い事業
- ③実現性…事業計画が明確化され、実現性が高く継続・発展が見込める事業
- ④緊急性…緊急性の高い事業

目的をハッキリさせた申請を!

定量的条件

- ①申請額がより小さい団体を優先
- ②申請事業の事業総額に占める自己負担金の割合が高い団体を優先
- ③団体の前年度決算における繰越剰余金額がより少ない団体を優先

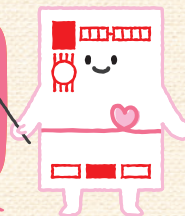


詳しい申請方法、お問い合わせなどにつきましては、日本郵便年賀寄付金Webサイト内、『年賀寄付金による社会貢献事業助成』のページをご覧ください。
<https://www.post.japanpost.jp/kifu/>

🔍 日本郵便 年賀寄付金



寄付金付年賀はがきは1枚につき5円が寄付金となり
障がい者の支援などに役立てられます。



● 寄付金付年賀はがき（販売価格90円、うち5円寄付）



全国版



地方版

● 寄付金付お年玉付年賀切手



88円
（うち3円寄付）



113円
（うち3円寄付）

※掲載しているはがきの色・デザインは実際とは多少異なる場合があります。 ※年賀切手のデザインは2025年版のものです。2026年版のデザインは日本郵便のWebページにてご確認ください。 ※寄付金付年賀葉書（地方版）は全26種類です。販売する地域によって絵柄が異なります。 ※販売価格は2026年用年賀の価格です。



年賀寄付金評価委員会 委員長ごあいさつ

川北秀人 IIOHOE [人と組織と地球のための国際研究所] 代表者

本誌でご紹介した活動は、2023年度に実施されました。生活困窮者の支援、身近な川の調査、障がい者の生活と就労を支えるビールづくり、子どもも大人も集まる駄菓子屋、子どもたちとともに造り営むビオトープ、技能実習生のための教材や書籍といった6件をはじめ、同年度に採択された計151件は、いずれも地域に必要とされ、寄付金を大切に活かして取り組んでいただいたことに、心から敬意を表し、深く感謝いたします。

助成させていただいた活動が、文字通り多岐に及ぶのは、この助成制度が間口を絞らずに多様性を尊重している証でもあります。一つひとつは、規模的に決して大きなものではありませんが、しかし、取り組んでいらっしゃる課題の深刻さや可能性は、それぞれ深く、大きいものばかりです。

今年度も社会福祉、青少年の健全育成、防災時の救助や災害の予防、地球環境保全をはじめとするさまざまな切り口から、よりよい地域づくりに向けて、課題に挑むお取り組みのご提案を、楽しみにお待ちしております。

また、心や気持ちがこもった年賀状で、人々の暮らしや自然を守る活動を支え続けてくださっている皆さまにも、心からお礼申し上げるとともに、日本全国の、小さな、しかし大切な課題への取り組みを、ひとつでも多く支えられるよう、寄付金付年賀はがきをより多くご利用いただけることを願っております。

日本郵便は、寄付金付「年賀はがき・年賀切手」を通じて、皆さまからのお預かりした寄付金を大切に社会に役立てていきたいと考えています。ご購入いただくことで、気軽に寄付活動に参加することができます。新年のごあいさつには、ぜひ寄付金付「年賀はがき・年賀切手」をご利用ください。

寄付金の活用方法は、この冊子のほか日本郵便年賀寄付金Webサイトでもご確認ください。

<https://www.post.japanpost.jp/kifu/>

🔍 日本郵便 年賀寄付金

